

着任のご挨拶

中・高等学校 校長 岡本 平



山桜会会員の皆様には、平素より本校の教育に対して、ご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。このたび、土井邦孝前校長のご退任のあとを受け、追手門学院中・高等学校長に就任いたしました。前校長同様、よろしくお願い申し上げます。今後の教育方針について、3点申し上げます。

第1は、魅力ある学校づくりであります。

明るく、楽しく、前向きな、響きあいのある学校が求められています。明るさには、物的な太陽の明るさと、心的な心の豊かさがあります。他人を思いやる心から発する優しい言葉や行動が学校全体を明るくします。学ぶ楽しさ、喜びを味わい、級友、先輩、後輩との友情を深め、助けあい、学びあい、響きあいたいものです。現状維持は、退化につながる可能性があり、常に前向きで、積極的な考え方が必要であります。

第2は、高い学力の養成と豊かな人間性の育成であります。

これらの教育目標を達成するためには、生きる力を育むことであります。生きる力とは、様々な困難に直面しても、常に夢や希望をもつ

て、積極的に立ち向かっていく心や態度、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力などです。また、自ら律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や、感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力などです。

第3は、主体的な進路選択能力の育成であります。

それぞれの能力・適性、興味・関心などにあった進路を、自分の将来の生き方に照らして、自分の意志と責任で主体的に選択し決定することができる能力の育成が求められています。何になりたいか、何故なりたいか、なるにはどうするか、なれるか、なるべきか、という5ポイントについて考えさせることが肝要であります。将来の生き方について考え、できるだけ早く、進路目標を決定し、その実現に向かって、全力投球することが、何よりも大切です。

教職員一同、力を合わせ、心をつなげて、生徒たちの教育に専念する所存でありますので、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

校友会 山桜会 創立90周年に寄せて

大手前中・高等学校 校長 亀井 哲夫



歴史と伝統というものは一朝一夕につくられるものではありません。町並みや里山でも、そこに生きる人その長年の美しい生活があつてはじめて温かい心うつ景観や風景が醸し出されてきます。

歴史と伝統はお金で買うことのできない無形の貴重な財産といえます。

追手門学院は明治21年の偕行社附属小学校以来、他にない突出した風格のある教育で、名門校として揺るぎない名声を博してきました。

このことは学校での教育だけではなく、それを実際に生かしておられる卒業生の方々の社会での活躍が大きいといえます。

そういう意味でいえば、同窓会組織の果たす役割は重要で大切といえます。

追手門学院の名声は校友会山桜会に負うところ実に大きいといえます。

偕行社は陸軍の将校クラブが母体となった組織ですが、将校と下士官・兵の違いは、将校には上官の命令がない時に「独断専行」が許されていることにありといわれています。

追手門学院の教育理念の「独立自^{じきよう}彊」の精神と通じています。いい学風というものは静かにしかし着実に形作られていくようです。

100余りの大阪私学のなかで私学としての個性的な雰囲気が強く「追手門らしい」という言葉が追手門学院にはあります。それは私学全体が時代の流れの中で標準化していくことは避けられない状況下で、追手門学院がその個性を保持しているのは、やはり伝統の強さといえるでしょう。

昨年、中学生に実施しました「将来を考える日」には、心よく山桜会の皆様にはお話しのお話を引き受けいただき感謝しています。

教育は学校の先生だけでなく、色々な人から生徒たちが刺激を受けることも大切だと思います。

先輩の方々から直接生の声で、フェイスツーフェイスでやさしく仕事の面白さや昔の学生生活の話のなかから生徒たちは生き方を学ぶことができたのではないかと思います。

まさに卒業生の方々は大切な人的資産といえます。私達はこれからも社会にとって必要とされるような人達を育てていかなければならないと思います。

そして今後とも校友会山桜会の充実発展を願うとともに追手門学院の名声を高めるよう努力してまいりたいと思います。